

## 人間であること、人間になること

人間とは何で「ある」のか？そして、人はいかにして人間に「なる」のか？この問いに答えるために、本コースでは、教育、思想、倫理、芸術、文化、身体など、多様なテーマに取り組んでいます。現代思想からサブカルまで、あらゆる領域が対象です。

多彩な研究領域を持つ教育学・人間学コース  
なんでもできる、その秘密は？  
三分野の複合領域だから  
**教育学/哲学・倫理学/身体文化学**  
それぞれの視点があるから、互いに刺激がある



授業風景

## 身近なテーマが「研究」になる♥あらゆるテーマが「卒論」になる

本学文学部では「卒業論文」を完成させて「卒業」です。カリキュラムの中で最も重要なものです。自分で問い、自分で調べ、自分で答えを出す。大学での「研究」の集大成。ここでは、これまでの卒論を紹介します。

卒業論文タイトル（2007-2010の主なもの）

♥ 卒論のキーワード

### 教育学分野

『アルプスの少女ハイジ』に見る人間形成モデル

♥ 教育学/人間学/人間形成論

ひとこと解説：ハイジには両親がなく、アルムお爺さんと暮らしながら、しかしすくすく育っています。これもまた子どもが育つ素晴らしい環境なのではないか、という着眼点から生まれた論文です。

育児雑誌にみる現代の子育てスタイル

♥ 幼児教育/現代社会論/家族論/メディア論

ひとこと解説：最近の若いお母さんの中には結構派手な人がいます。彼女たちの育児はどんなものなのかなあ？と疑問がこの論文の出発点。彼女たちの読んでいる育児雑誌を分析しました。

学校と地域の連携について 一地域への影響を中心に

♥ 教育社会学/地域学/インタビュー調査

ひとこと解説：近ごろ元気がないといわれる「地域社会」。学校は地域を元気にする拠点になり得るのでは？そんな思いで地域を歩き、いろいろな人にインタビューをしてできた論文です。

モンテッソーリの教育思想 一「自由」の概念の検討を中心に

♥ 教育思想史/教育哲学/人間学

ひとこと解説：幼稚園あたりまえのように行われている「自由遊び」。そこにはどんな意味があるのかについて、独特の教具で有名な教育者モンテッソーリにさかのぼって考えた論文です。

### 哲学・倫理学分野

主体から見た「死」の考察 一私の死と他者の死

♥ 哲学/人間学/生命の哲学

ひとこと解説：「死」は誰にでも訪れるものですが、死んだ人から話を聞けないので、それがどんなものか、誰も知りません。「死ぬ」ってどういう経験なの？そんな素朴な疑問に挑んだ論文です。

九鬼周造における「運命」の思想 一偶然性と必然性の存立構造

♥ 日本哲学/思想史/現象学

ひとこと解説：家族、友人、恋人、恩師…われわれは人生で数多くの大事な人と運命的な出会いをします。それは偶然か必然か、そんなこと考えた事ありませんか。哲学とはこんなふとした疑問から始まっているのです。

「工場萌え」の美学的考察

♥ 美学/現代文化論/アートの哲学

ひとこと解説：最近の「萌え」ブームは「工場」にも及んでいるそうです。「工場萌え」を哲学した論文です。

### 身体文化学分野

アウトドアブームにおける女性像の変容 一近年の山ガールブームを中心に

♥ 身体文化学/現代社会論/メディア論

ひとこと解説：最近の「山ガール」ブームで、お洒落になったアウトドアファッション。昔から山が好きだったこの学生さんは、お洒落ができてうれしい半面、チャラチャラしすぎとも感じていました。そんな素直な気持ちがかんたんな論文になりました。

高度経済成長期以降の教師ドラマの変遷 一異人としての教師像に着目して

♥ 大衆文化論/サブカルチャー/教師論

ひとこと解説：「ハンマーセッション」「ごくせん」「GTO」から「金八先生」まで、テレビに欠かせない「教師ドラマ」。たくさんの教師ドラマを実際に見て、そこに共通する教師像、変わってしまった教師像を、「異人」という概念で読み解いた論文です。

あさのあつこ『バッテリー』にみる〈リアル〉な少年像

♥ 身体文化学/少年文学/スポーツ文化論

ひとこと解説：少年文学でありながら、大人にもヒットした『バッテリー』。その面白さを解明した、スポーツ論的文学論です。スポーツと文学、遠いようで、案外近いんです。

ロック・ジャーナリズムにおけるブリティッシュ・ロックの表象変容

♥ ポップ・カルチャー/メディア論/音楽社会学

ひとこと解説：オアシスというイギリスのバンドが大好きだったので、できた論文です。こんなテーマでも卒論を書けるのです。

かたいテーマはやわらかく♥やわらかいテーマはかたく、語ることが目標です

## 卒業後の進路

幼・小・中・高の教育職はもちろん、各種公務員、大学院進学、そして多くの学生は一般企業にも就職をしています。新聞社・出版社・銀行・保険会社・航空会社、ブライダル会社、発達相談センター、善光寺事務局、消防職など、その道は多彩です。本学の長い歴史の中で輩出された数多くのOGたちがみなさんを支えます。



クリスマスに留学生と



卒業式

## 卒業生の声 少人数の学び合いで、目標を見つけることができた大学生活

2007年3月卒業 板井南美さん (小学校勤務)

このコースは、人間という存在について、さまざまな視点から考えることができるところです。音楽、哲学、思想、教育…実に多様なアプローチがあります。

私ははじめから挑戦したいことが決まっていたわけではありません。ただ、教育というものが面白そうだと感じていたに過ぎませんでした。しかし、1、2回生の幅広い学びの中でいろいろな分野に興味を持ち、さらに上回生で専門を学ぶにつれて、自分のアンテナに反応するさまざまなものにつながりがあることに気づきました。一人ではそのつながりをつかむことはできなかったと思いますが、ありがたかったのが少人数制だったということです。それは自分の考えを丁寧に整理していく上で、とても大切な環境でした。一人の学生に、これだけ多くの時間を割いてくださるコースは、なかなかないと思います。

私の大学生活の最大の収穫は、目標とするものが見つかったことだと思っています。自分がこんなことがしたいと発信すれば、先生方や仲間たちがすぐに反応してくれる、そんな環境の中で、「こんな風になりたい」「こんな風にやってみよう」というものを見つけることができました。同じコースの友人とは、切り口がそれぞれ多岐にわたることで、お互いの視点から面白い発見を見出すこともでき、お互いにより刺激が得られました。そして、大学で目標とする先生に出会うことができ、私は今教壇に立っています。大学生活は、振り返るたびに私にエネルギーをくれる存在です。



## コース担当のスタッフ紹介



西村拓生  
【教育思想史】



伊藤一也  
【教育人間学】



保田卓  
【教育社会学】



柳澤有吾  
【哲学・倫理学】



功刀俊雄  
【身体文化史】



鈴木康史  
【身体文化学・大衆文化論】

## 最近の授業のテーマから

### 教育学分野

- ♥美と教育 ～シラーの美的教育論の解釈史から
- ♥大正自由教育 ～木下竹次の学習法
- ♥高等教育の社会学 ～危機と改革

### 哲学・倫理学分野

- ♥現代アートと公共性 ～パブリックアートの現在
- ♥現代社会における医療・福祉・教育 ～能力主義と「弱者の哲学」

### 身体文化学分野

- ♥少年・少女雑誌の身体と精神 ～1920-30年代のスポーツ小説から
- ♥サブカルチャーと現代社会 ～昭和マンガ史に見る「傷つく身体」
- ♥パフォーマンスする身体の政治学  
～キング牧師、モハメド・アリ、マイケル・ジャクソン



卒論発表会と  
その後のコンパ

## 在学生から 身近な疑問から研究へ 3回生 渡邊亜友加さん

みなさん、こんにちは。教育学・人間学コースは、「人間」について、様々な角度から学ぶことができるコースです。学生の研究分野は幅広く、「学習塾」や「職業教育」「医療」「テレビドラマ」についてなど、ほとんどが身近な疑問から出発しています。私は、現在は「児童虐待」に興味を持ち、研究しています。また、とてもアットホームな雰囲気のできるコースですので、自分が興味をもった問題について、倫理学・教育史・教育社会学・身体文化学などを研究されている先生方から幅広い指導を受けることができるという点も、このコースの魅力です。

教育学・人間学コースで、自分が感じた疑問や、興味を持った問題について広く深く学びませんか。

